

週日の説教

金 大烈 神父 2009年4月4日(土)

《神様の愛は、十字架の犠牲で証明されました》

今日は福音に入る前に、答唱詩編(詩編 65・5、6)の内容を黙想してみましょう。

「あなたの庭に住むように選ばれ、招かれた人はしあわせ。

わたしたちはあふれる恵みに潤される、あなたの家 神殿の中で。」

大体私たちは、信仰の持ち方で錯覚をしていることが一つあります。特に、誰かに連れられてイエス様に対しての信仰を持った人ではなくて、自分の足を運んで信仰を求めた人に多い錯覚です。

それは、自分がキリストを選んだ、カトリック教会を選んだ、と考えることです。しかし絶対そうではありません。招きによってここまで来たのです。それを悟ることが信仰の始まりです。紆余曲折を経て、自分がキリストを選択したような気持ちの人が結構います。しかし、そうではありません。それは導かれて来たのです。それを悟らなければ、いつも自分が優先になってしまいます。自分が選んだものだから、自分で捨てることもできるし、間違えて選んだということもあります。しかし、"理由は分からないけれど、何かの神秘的な力によって、ここまでたどり着いたのだから、これは招きだろう" という悟りがあれば、気軽に逃げる場所を探そうとは思いません。選ばれたのだから幸せな生き方をしなければならぬ、という心が自然に生じると思います。

もう一度読んでみます。「あなたの庭に住むように選ばれ、招かれた人はしあわせ。」

皆様は選ばれたのです。まず、選ばれたことに感謝しましょう。そして、なぜ選ばれたのかを考えてみましょう。それから、選ばれたことにどのように応えればよいかを考えます。それが私たちに与えられた信仰の道ではないかと思ってみました。

次に、信者ではない人が、聖書を読んで、信者である皆様に質問をしたとします。「全知全能である神様の子なのに、なぜ十字架の道を選ばなければならなかったのか。なぜ、あのようにみすばらしい姿で死ぬことを選んだのか。」このように聞かれたら、皆様はどのように答えますか。何となく分かるような気もしますが、きちんと整理をして、答えられるでしょうか。ある意味では、ものすごく虚しいことですよね。全てのことができる方ならば、いくらでもよい道があったと思います。悪人を全部殺して、善い人だけで帝国を作る方法もありますね。しかしイエス様は、そのような方法はとりませんでした。そして、自分を産んだ母親でも理解できないような方法をとりました。復活されて聖霊降臨の前には、聖母マリア様も弟子達も全員分かりませんでした。

そのような生き方、死に方をした理由は何でしょうか。それは神様の愛のためです。では、神様の愛とは何でしょうか。神様は、愛によってこの世を作りました。そして、愛によって人間を作り、人間に "自分を創った神様さえ拒める" くらいの自由意志を持たせてくださいました。"あなたが私を作ったかもしれないけれど、私はあなたを要らない" と言えるくらいの自由意志でした。しかも神様は、旧約の預言者などの口をとおして「私は愛するものである」とよく話されています。その言葉に責任を負う唯一の方法は自分が死ぬ方法しかありませんでした。自分が口にした愛という言葉の意味を証明する方法は、自分が死ぬ方法しかなかったのです。他の者に犠牲を払わせるのは、愛ではありません。本当に愛を自分のものにするために、自分が死ぬしかなかったのです。

そういう意味で、私たちはイエス様を信じるのです。そのような素晴らしさ、美しさを持っている方なのだから、"だまされてもいい、神様の子として信じます。" という告白ができるのです。

いろいろな権力者を考えてください。自分のためには、必ず相手に犠牲を払わせます。今まで、全知全能の力を自分の犠牲をとおして証明された方は、イエス様しかいません。仏陀もできませんでした。マホメッドもできませんでした。だから、イエス様の口から出される言葉は真実であると私たち

は信じるのです。

皆様、誰かに聞かれたらゆっくり説明してください。神様が、ご自分の愛によって造られたこの世界に対して責任を負う唯一の方法は、十字架の道しかなかったと。それで私たちはイエス様が神様の子であることを信じることになった、とおっしゃってください。

ありがとうございました。